

日本なし、かき栽培での化学肥料削減技術 (Vol. 4)

農作物の栽培には欠かせない肥料ですが、化学肥料の過剰使用による土壌や水系への影響が指摘され、国が推進する「持続可能な農業」の実現に向けて使用量の削減が求められています。また、近年続く価格高騰による農業経営への影響から重要な研究テーマとなっています。

南信農業試験場では、日本なし、かき栽培での化学肥料の効率的施用に向けた研究に取り組んでいます。従来、ほ場全体の地表面に施用していた肥料を根が分布する部分に集中して施用したり、機械を用いて土壌中の根の付近にピンポイントで施用することで、植物の肥料の利用効率が上がり、施用量を減らすことができます。

樹の生育や収穫できる果実の量、品質、施用した土壌への影響（pHやEC（電気伝導度）、可給態リン酸や全窒素の量などの土壌化学性）、樹体内に取り込まれる肥料成分の量などを長期間にわたって調査し、農業生産に影響がなく肥料の使用量を削減できる技術を開発しています。近年、当場で開発した日本なしにおける化学肥料削減技術は、以下の二次元コードからご覧いただけます。



植物内に吸収された窒素量を分析中
(正確で再現性が高いケルダール法で分析)



南信農業試験場で開発した
日本なしでの化学肥料削減技術はこちらから